

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月9日実施)	総合評価（3月13日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領に基づき、生徒の状況やニーズに応じた教育課程の編成、検証及び改善に取り組む。 ②組織的に授業改善に取り組み、意欲や目標を持って主体的に学び考える力を育成する。	①学習指導要領を着実に実施するとともに、各教科の特質を踏まえて生徒の資質・能力の育成をはかる。 ②教員相互の日常的な学び合いを通して授業力を高めるとともに、引き続き課題解決能力を伸ばすための授業実践に取り組む。ICTの活用を進めながら、生徒の興味・関心を引き出し、生徒が主体的に学び考える授業づくりに学校全体で取り組む。	①選択科目説明会や面談等を通して、生徒の状況や進路に応じた科目選択ができるよう、一人ひとり丁寧な支援を行う。 ②授業見学ワークシートの改良や、授業公開月間の設定など、教員同士が日常的に学び合える仕組みや文化を整える。課題解決力を伸ばすための授業について、教科の枠を超えた研究にも取り組み、情報を共有しながら組織的な研究体制を構築する。	①生徒が選択科目を選ぶ際に進路に応じた選択ができたか。 ②教員同士の日常的な学び合いが増えたか。 授業研究会への実施など、年間を通じた授業研究体制が確立できたか。 ②授業担当者が生徒の学習の様子への理解を深めるとともに、生徒が主体的に学び考える授業を実践できたか。	①1、2学年で選択科目説明会を実施するとともに、担任を中心として一人ひとりに応じた科目選択を支援することができた。 ②前期の授業公開月間では、教員同士の授業見学をあまり活性化することができなかった。8月の教員対象研修会事後アンケートでは、学習者で8割以上の教員が「やや当てはまる」以上の回答をしており、学習者に着目するという研修の意図が一定程度達成された。	①科目選択の前段階から、生徒が進路や生き方の展望を持てるよう、総合的な探究の時間を中心に学習の機会を設ける。 ②後期授業公開月間では、ワークシートの記入と提出を最低1度行うことを周知し、参観を行う動機づけとする。8月の教員対象研修会事後アンケートでは、学習者の学びだけでなく、教員の教えの側面に関する研修を求める声もあった。次回の公開授業研究会での協議においてこの視点も導入する。	・自分の高校時代、先生が黒板にチョークで書いて生徒は一生懸命写していたが、本日、授業を見て、各教室にモニターがあり、ICTを駆使した授業が行われていて感心した。 ・家庭科の授業でレシピを吊り下げ式にしてあって、メモができるなど工夫があった。フードデザインでヘクセンハウスに取り組んでおり、その方面に進路を決めている生徒もそうでない生徒もおり、進路に応じて選択科目を選ぶだけでなく、人生の余暇として多様な学習が展開されていてよいと思った。	①1、2学年において選択科目説明会を実施し、本校の設置科目の特徴や自身の適性を踏まえた科目選択をおこなうよう一人ひとりに支援することができた。一方で、生徒が進路や生き方といった、より長期的な見通しをもって科目選択ができるようにしていくことが課題である。 ②後期授業公開月間では、ワークシートの記入と提出を最低1度行うことを周知したことで、前期と比較して授業観察の実施率が向上した。11月の教員対象研修会事後アンケートでは、授業観察において学習者に着目することの意義が一定程度共有された一方、教科の視点から議論を深め、より具体的に授業に還元していくことを求める声もあった。また、一人一台端末の効果的な活用を進めていくことも課題である。	①科目選択の前後を通じて、生徒が進路や生き方といった長期的な視点から将来の展望を深めることができるよう、総合的な探究の時間を中心に、学年・教科と連携して学習の機会を設ける。各教科の授業においてその科目を学ぶ意義や社会とのつながりを伝えていけるよう学校全体で取り組む。 ②次年度の校内授業研究では、授業観察において学習者の学びの様子に着目するという過去2年間の取組を継承しつつ、教科としての授業力の向上や授業のより具体的な場面に還元していくことに資するような研修会を企画・実施し、その成果を検証していく。一人一台端末の効果的な活用に向けて、グループ間で連携し、学校全体で取組を進めていく。両者に関して、外部の専門家と協働し、充実した校内研究を実施する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①新羽生としての自立と自律を促し、誇りと自覚及び積極的で能動的な態度を持つ生徒を育成する。 ②生徒がルール・マナーなど社会規範を遵守する意識を持ち、安全かつ安心して学べる学校づくりを推進する。	①昨年度から行事を発展させる。 ①学校での活動を活発化するため、部活動加入率50%を目標に体制を整える。 ②生徒の自己管理能力を高め、安心・安全な学校生活と、希望する進路の実現につながる生徒支援・指導を実施する。	①コロナ化のため実施できていなかったことを整理し、実施可能か検討する。 ①1学年と連携して部活動紹介や見学などの勧誘活動を積極的に行う。中学校対象の部活動見学を実施する。 ②学校生活におけるルールやマナー等の周知徹底をおこなう。職員の指導力向上を進め、生徒ひとり一人に丁寧な支援と指導を実施する。	①行事において昨年度実施できていなかったか活動ができたか。 ①1年生の部活動加入率が昨年度より上がったか。 ②特別指導件数及び交通違反・事故件数が昨年度よりも減少したか。また、外部からの指導に関する情報提供や苦情が減少したか。	①体育祭では色別対抗や応援パフォーマンス、文化祭では調理団体を復活させることができた。 ①1学年の部活動加入率が4割に達せず、全学年の加入率も低下してしまった。夏季休業中に中学生対象の部活動体験を実施し74名の中学生が参加した。 ②生徒に対し丁寧な指導を実施した。特別指導件数は減少していない。	①コロナ以前に戻すのではなく、より良い行事にするために何をすべきかを検討する ①中学生には学校HPなどを通じて部活動をアピールし、新入生には4月の部活動勧誘を活発化し、入部を促していく。 ②生徒ひとり一人に丁寧な支援と指導を実施を辛抱強く更に進める。問題行動の実態をより正確に把握する。	①新羽のサマーフェスティバルでダンス部がオープニングイベントに出てくれた。 ①町内会で鶴見川の清掃を行っているが、そこに高校生も協力してもらえないかという依頼があった。そのため生徒から参加者を募集し、12月10日(日)の南町内会の鶴見川清掃の活動に7名が参加した。 ①チケット制になり、コロナ対応されていると感じた。コロナが5類に移行しても盗撮被害防止など管理体制が大変だと思う。	①体育祭では色別対抗や応援パフォーマンス、文化祭では調理団体を復活させることができた。今後はその内容を充実させていくことが課題である。 ①1学年の部活動加入率が4割に達せず、全学年の加入率も低下してしまった。夏季休業中に中学生対象の部活動体験を実施し74名の中学生が参加した。 ②生徒に対し丁寧な指導を実施した。朝の校門指導、巡回、頭髪、服装等、前年度と比較して丁寧な指導を実施できた。特別指導件数、交通事故件数は減少していない。スマートフォン等の通信機器を介したSNSの利用による退陣トラブルが増大しておりこれまで以上の対応が必要。	①行事については、実行委員との話し合いを早めに行い、他校の実施状況を参考にしながら計画を立てる。 ①次年度においては女子生徒の割合が多くなるため、文化部の活動を盛んにし、運動部への入部を積極的に促して入部率を上げていきたい。 ②これまでの指導を継続しつつ、増加傾向にあるスマートフォンの利用及び、SNS関係のトラブル、問題行動について指導を全学年に継続的に指導をおこなう。交通安全指導においても引き続き交通ルール・マナーを守るための指導を実施する。
3	進路指導・支援	①激動する現代に適応できる人材の育成を図る。 ②生徒が目標を持ち、基礎的・	①生徒の希望に合った進路の実現を図る。 ②授業やガイダンスなどを効果	①進路希望調査や分野別ガイダンスを実施し、生徒の希望の把握とその実現に向けた指導を行	①生徒自身が、希望に沿った進路実現を果たすことができたか。 ①インターン	①県主催のインターンシップに12人参加し、進路選択の参考とすることができた。 ①全職員による面接	①インターンシップへの参加者が昨年に比べて減った。インターンシップの意義等を説明しながら参加を促していく。	・10月10日に1年生全員が神奈川大学で特別講義を受けていただいた。大学側も目指したい大学づくりをしていきたい。	①進路希望調査や分野別ガイダンスを計画的に実施することができた。また、総合型選抜で受検する生徒が増え、主体的に進路の決定をする生徒が多く、就職希望者も全員が就職すること	①各教科や他グループとの連携を図り、進路支援を学校全体で取り組む。一人ひとりの進路希望を把握し、進路意識の向上と、進路実現に向けた進路活動が主体的にできるよう促してい

		汎用的能力の育成を通して、希望する進路を実現する意識の向上を図る。	的に活用する。	う。夏休みのインターンシップや面接練習に積極的に参加させる。 ②授業やガイダンスなどを工夫し、自己実現に向けた目標の設定を行わせる。	シップや面接練習に参加することができたか。 ②生徒が自己実現に向けた目標設定をすることができたか。	練習や、業者による面接練習を実施することができた。 ②「総合的な探究の時間」を活用して進路希望に応じた分野別ガイダンス・学校別ガイダンスを実施した。	①業者による面接練習への参加者が昨年に比べて少なかった。個別に面接練習をする生徒も多いため、活用するように促していく。 ②ガイダンスの目的や意義をしっかりと生徒と共有した上で、時期や回数等も検討して実施したい。	・理系の学部・学科が多様で細かく、高校生にはそれがどんな学問なのかわかりにくく進学先として選択しにくいと聞いている。	ができた。生徒一人一人の希望に合った進路の実現ができた。一方、進路未決定者をゼロにすることができなかったことは課題である。 ②ガイダンスや校内模試（基礎力診断テスト等）を通して目標設定を行うことができた。しかし、目標設定が妥当であるか、目標の達成のために何をすべきかという具体的な手立てまで考えられるようにしていくことが課題である。	く。進路室を整備し、生徒が活用できるようにする。 ②計画的にガイダンスを実施しながら、就職指導等のサポート体制も継続していく。校内模試（スタディサポートテスト）を活用し、目標や目的を持って進路決定ができるように指導していく。
4	地域等との協働	地域に開かれた学校づくりをいっそう推進するとともに、学校行事等の発信等を通じて、地域から信頼される学校づくりを強化する。	本校の進むべき道を生徒との日常生活を通して目指すことやできることを客観的に捉え、中学生や地域住民へ発信していく。その発信には学校連絡協議会を通じて更なる理解と協力を目指す。	各グループの年間目標をより明確化し具体化を目指すことで、生徒自身の目標の明確化を図り、学校説明会や各種説明会において多種多様の資料を持って発信する。ICTと連携を取り、中学生の求めている情報を提供する。	本校の情報を伝えることが出来たか。中学生や新入生の意見を集約し、本校へ求めている高校像を明確にしていくことが出来たか。	説明会資料のデジタル化を進め、より明確に、視覚に訴えることもできるようにした。校舎内を自由に観覧できるように工夫した。また、説明会等昨年までの模擬授業や部活動体験型の説明会を再考し、一人でも多くの中学生や保護者が来校できるように変更した。	限られた教員や部活動生徒の協力があって当日の運営ができてはいるが、学校全体として、学校運営に積極的性欲しい。実施時期によって、準備に十分な時間が取れないことが気になった。	・この数年、新羽高校の募集については1.2～1.3倍の倍率を推移している。10月の学校説明会も300組の申込があり、人気は衰えていない。	新羽地区での交流が復活し、地区における本校の役割が改めて明確になった。しかし、時期的な問題もあり、限られた部活動の参加が残念である。学校説明会を夏季休業中5回。秋季に2回行い、いずれも多数の参加者があり、結果的に今年度の募集倍率も1.2倍を超えた。来年度は、2学期より体育館改修が始まるため、学校説明会の工夫が求められる。	高校の在りようによって、地域との関りがどうしても薄くなりがちではあるが、地域を大切にすることがコロナ禍が明けてから一層重要であると考え。学校全体で行事や授業や部活動の積極的な交流が進むことが必要だと考える。外部施設での説明会を早めに検討し、体育館改修を逆手にとって生徒募集に影響が少ないように努力する。可能であれば、中学校や塾の先生方を招いて学校説明会を実施することも必要になってくる。
5	学校管理 学校運営	①学習環境及び生活環境の見直しとさらなる整備を目指す。 ②学校運営のさらなる効率化と事故不祥事防止に取り組む。	①定期試験や成績処理において事故が起こらないような取り組みをする。 ②昨年度の学校環境の改善を受け更なる環境改善に留意する。 ②校内業務のICT化を推進し、業務の削減・効率化を進める。 ②職員に対して情報セキュリティの意識向上を図る。 ②校内のICT機器を一括管理する。	①試験問題作成や、試験監督業務での注意事項を事前に喚起する。また、成績処理について点検・確認手順について徹底する。 ②コロナ禍から通常の生活に戻り、学校としてできる消毒や清掃を続けて意識させる。 ②職員1人1台端末を導入する。 ②職員対象情報セキュリティ研修会を行う。 ②県のルールに従って毎月の履行確認を厳行し、ICT機器の紛失を防ぐ。	①事故を起こさない取組について成果が見られたか。 ②校内業務のICT化を推進し、業務の削減・効率化を進めることができたか。 ②職員対象情報セキュリティ研修会を実施し、職員の意識向上を図られたか。 ②県のルールに従って毎月の履行確認を厳行し、ICT機器の紛失を防げたか。	①試験期間に入る前に『定期試験等における事故防止について』を配付するとともに、試験実施日には毎朝、実施上の留意事項や試験問題の扱いについて注意を喚起した。（学務G） ②これまで以上にトイレや共有場所を定期的に清掃をお願いした。 ②全職員に1人1台の端末を割り振り、ICT推進グループが職員のICT関連のサポートをし、校内業務のICT化を推進している。 ②職員対象情報セキュリティ研修会を実施し、職員の意識向上を図っている。 ②県のルールに従って、毎月の履行確認を厳行し、ICT機器の紛失を防いでいる。	①今後とも事故防止に向けた取り組みを継続する。（学務G） ②ごみの分別や公共場所の使用マナーの向上を検討したい。 ②職員用の端末が在籍数の半分しか支給されていないが、生徒端末で対応しているが、今後は不足してくるので、職員に1人1台端末を割り振れなくなる。 ②全体の意識は向上しており、活用が活発になれば、個々の管理体制の強化を検討。 ②県のルールに従って、履行確認を現行しており、引き続き継続していく。	・黒板しか使っていない授業とモニターを使っている授業があり、モニターを活用している授業はコミュニケーションが活発だと感じた。生徒は授業に集中しており、しゃべっていても授業に関連のある話で、コミュニケーション力が高まると感じた。場面が変わってもそちらに興味があるので居眠りをしていない生徒はいなかった。	①試験作成や監督業務において事故が起らないよう『定期試験等における事故防止について』を配付したり、打合せでの周知を徹底したりすることにより未然に事故を抑えることができた。 ②成績処理について新成績処理シートの更なる定着を図る。 ②全HR教室にWi-Fiを設置し、ネット接続環境を改善した。 ②全ての特別教室に大型モニターを設置し、授業のICT化を推進した。 ②非常勤講師全員に校務用PCを貸出し、業務の効率化を推進した。 ②Mark Scanの修正版を周知・普及させて、採点業務の効率化を推進した。 ②小会議室を整備し、ICT機器を保管する部屋を確保し、ICT機器の管理体制を確立した。 ②放送室・体育館放送室・視聴覚室を整備し、新規購入した放送機器・大型プロジェクターを管理した。 ②職員用の端末が在籍数の半分しか支給されていないが、生徒端末で対応しているが、生徒用端末がリース切れに伴い、不足してることが課題である。	①事故防止に関してこれまでの取組を継続するとともに、成績処理に関してはミスを防止するよう手順の点検・確認を徹底していく。 ①トイレ清掃の問題を限られたクラスや生徒の問題とせず、学校全体として取り組んでいく。 ①外部施設活用の準備を早めに行う。 ②生徒用端末がリース切れに伴い、職員全員に割り振れなくなるが、端末を買い取ることで不足分を補う。